



名前 : Kotaro Nakanishi

期間 : 2019 年 7 月より 2 か月留学

現地校 : CMIC (Cebu Mary Immaculate College)
Grade11 (高 2 に相当) へ入学

フィリピンで高校生をすると…

私が通うここ CMIC (Cebu Mary Immaculate College) は、Grade1~Grade12 と college を合わせて 500 名程度の学生を擁するカトリック系の学校です。私は今、Grade12(高 3 に相当)でとても賑やかな約 30 名のクラスメイトと共に高校生をしています。今から約 2 カ月前、私はこの学校にやってきました。私は入学当初、Grade11(高 2 に相当)に在籍していました。

突然の定期テストと進級。

フィリピンでは、様々なイベントが唐突に発動することが多々あります。例えば、実際に学校に通い始めると、特に特別視されることもなく(この学校では珍しい日本人だったので、日常的に、多少の質問攻めには合うが、学業面では)、ローカルの在校生と大差なく扱われます。そのため、小テストから定期テストまで、ありとあらゆるテストが降りかかり、それらと毎日格闘する日々が最初の 1 か月間続きました。これは英語を母国語としない私には鬼のような試練でした。一方、先生方はとても熱心で授業の質もとても高いです。先生との関係性はインター学生にとって、最も重要なことのひとつです。何より私は英語で行われる授業への不安が大きかったです。CMIC の先生方は共通して面倒見がとてもよく、私が行き詰まっていると見れば、すぐに補足をして下さいます。また授業以外の場面でも先生方とコミュニケーションを取ることは多くあり、もし私の発音や言い回しに怪しい部分があれば、その都度教えて下さいました。これらひとつひとつの経験によって、私の英会話力は桁違いに向上した様に感じます。

通い始めて 1 ヶ月、学校にも慣れ、定期テストを乗り越えた時、私は事務オフィスに呼び出され、進級を言い渡されました。そして私は、2 セメスター開始早々、Grade12 移ることになりました。

具体的に” Grade11” と” Grade12” は何が違うの？

ズバリ、教科が変わります！当たり前と言えれば当たり前ですが・・・ただ教科だけが変わるのではなく、その教科の趣旨、目的が大きく変わります。具体的には、

Grade11

- ①IT (情報)
- ②Business mathematics (簿記、解析)
- ③ABM (経済)
- ④Filipino (国語:タガログ語)
- ⑤General mathematics (代数・幾何)
- ⑥Communication (コミュニケーション)
- ⑦Earth science (地学)

Grade11 では基礎的な知識を学習する教科が主となっています。ここはさほど日本とは変わりません。

Grade12

- ①Research I (自由研究)
- ②Business mathematics (簿記、会計数学)
- ③ABM (経済)
- ④Philosophy discussion (倫理、ディスカッションやディベート)
- ⑤Filipino Research (フィリピン史に関する課題研究)
- ⑥Research II (自由研究)
- ⑦Traditional Filipino Art (フィリピン文化史)

対して Grade12 は考える力を育てることに重点を置いた教科となっています。実際私が Grade12 に移ってからは 1 日に三枚以上サマリーを書く日々を送っていました。

調べる→まとめる→グループディスカッション→プレゼンテーションといったサイクルを毎日繰り返し、これによって私は学力、思考力はもちろんのこと、精神面でもかなり鍛えられました。英会話に限っては、6 週目を超えたあたりから、友達との会話の中でジョークを言って笑えるほどになっていました。

ローカルスクールだからこそ…

ローカルスクールに通っている中で育った能力がもう一つあります。それは現地語です。インター学生が多く通うインターナショナルの私立校とは違い、ここはカトリック系のローカル校です。ビサヤ(現地人)率 99%超えのこの学校内では、英語話者のインター学生はたった 4 人(その上私は唯一の日本人)。私のクラスに至っては、私以外全員がセブアノ語を話していました。授業中であっても、それは例外ではなく、学校の授業は英語で行われますが、生徒からの質問や先生からの返答などで、常時、セブアノ語が飛び交っています。もちろん私は理解できないことの方が多く、そのままその状況を放置しておく訳にもいかなかったので、セブアノ語を勉強することにしました。

現地校はセブアノ語を勉強するにはうってつけです。何より四六時中セブアノ語をリスニングしているわけですから、みるみる内にセブアノ語力が伸びていきました。正直、最初はセブアノ語が飛び交う教室環境にイラダチさえ感じていた自分でしたが、そこに言語習得という目的が加わった瞬間、有意義な空間に様変わりしていました。こういった面で、現地校というとてもローカリーな場所は、言語学習の”楽しみ”や”意義性”を改めて再認識させてくれました。

これら全ての経験を踏まえて考えること。

日本の学校だけでは学びえないことはたくさんありますが、その中でも、圧倒的マイノリティーの中で学校生活を送ることで、マイノリティーであるからこそそのしんどさや、大変なことを体験出来たことは、日本で普遍的な生活を送っていた私にとって、とても貴重なことでした。そして、より有意義であったのは、マイノリティーであった私に終始差し伸べられていた、たくさんの助けです。学校の友人や先生、たくさんの人々に助けられながら日々生活を送れていることを自覚出来たことは最も価値、意味のあることだと私は考えます。これは日本にいてもどこにいても変わらない事だと思いますが、何か普段と違う環境に身を置かなければ気付きにくいことかもしれません。私の場合、それ気付かせてくれたのが、CMIC でのとても濃い日々だったと感じています。ちなみに、神様は越えられない試練は与えないのだそうです。私もそう思います。

CMIC Grade 12
Kotaro Nakanishi
8 September 2019